



社会言語科学会ニューズレター

The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

第 10 号

2001年8月31日 発行：社会言語科学会事務局
〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学文学部永瀬研究室気付
Fax: 044-911-1231 E-mail: thb0308@isc.senshu-u.ac.jp
<http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/>

《巻頭言》

コミュニケーションを担う言語と非言語伝達

大阪大学大学院人間科学研究科
社会言語科学会理事
大坊 郁夫

「思い」を伝えるということは、容易ではありません。だからこそ、その要因や規則性についての関心が絶えず、研究も積み重ねられていると言えるでしょう。

誰もが自分の気持ちを分かってもらいたいものです。その一方で自分を守りたい、他人にけちをつけられたくないとも思っています。自分のことを分かって「もらいたい」のですが、なかなか他人を「分かってほしい」とはならないようです。ふだんの生活では自分のことを分かってもらえるかどうかで他人とのつき合い方を判断しがちです。もっともなことですが、これでは、互いに配慮した確固たる人間関係は容易には築けません。

人は自分に都合のいい人とは身近につき合いたいと考えます。自分をうまく受け入れてくれそうもない人には自己開示せず、部分的な関わりですませてしまいがちです。得るところがないと考えからず。近年、この類の関係が増えています。当たり障りのない話題の話はしても、自分の意見を互いにはっきりとは示さず、相手からの辛口の指摘も受けなくて済みます。あいまいな、互いの

境界も見えない(自分もよく捉えられていない)、どうでもいいような関係が増えてきています。いつでも消えてしまいそうな関係からは大した満足は生まれません。ですからいつでもなにか物足りない、つまらないという不満がつのるだけです。厳しく突き詰めた、スリリングで、はっきりした結びつきの関係を作らなければならないのです。相手と親しくなるほどお互いを誉めもしますが、批判や喧嘩も多くできるものです。それだけ率直な表現ができ、そしてお互いの価値を認め合いたいがために自他を照らし合わせることができるのです。

なかなか本心を出さず、当たり障りのない、つかず離れずのような生活は、孤独しかもたらしません。自分を追究することにはならないのです。

伝え合いがうまくできなければ、自分も、ひいては社会も壊れていくだけです。伝え合いが希薄化した現代、コミュニケーションを扱う者にとっての課題は大きいものです。言語と非言語の情報は不可分で密接に連動しています。そこには探るべきテーマが現実の問題として、研究者の手を待っています。

今期、理事にお加えいただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

(だいぼう いくお)

2~4 ... 第8回大会プログラム

5 ... 第8回大会キャンパス案内図

学会誌『社会言語科学』：特集号テーマの募集・書評候補の募集・「特集・言語の対人関係機能と敬語」論文募集

6 ... 第9回大会のお知らせ／研究発表の募集／研究大会ワークショップ企画募集のお知らせ

7 ... 研究最前線／博士論文情報／事業委員会から：「博士論文情報」「新刊紹介原稿」募集

第8回社会言語科学会大会プログラム

期日 2001年9月22日(土) ~ 23日(日)

場所 慶應義塾大学三田キャンパス

所在 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45 (<http://www.keio.ac.jp/access.html> 参照)

開催校・連絡先電話 03-3453-4511 (代)

交通 JR (山手線) 田町駅から徒歩約8分

社会言語科学会の第8回大会が開かれます。会員以外の方も参加できますので、お声をかけ合って、ご参加ください。事前登録は不要です。直接会場へお越しください。

第1日 9月22日(土) 9:00 受付開始 10:00 開会

午前の部 研究発表：3会場で同時進行

〔研究発表1：A会場(西校舎ホール)〕

- 10:00-10:25 カナダの日系二世と帰加二世が会話で見せる二言語使用パターン
のの違い：二言語能力、アイデンティティ、言語選択の観点から 西村美和(群馬県立女子大学)
- 10:25-10:50 在日留学生のパーソナル・メディア利用と日本語習得に関する調査研究 金 相美(東京大学)
- 10:50-11:00 休憩
- 11:00-11:25 「ほめに対する返答」の日本語と韓国語の対照研究 金 庚芬(東京外国語大学)
- 11:25-11:50 日韓の非言語コミュニケーションについて 任 樹(名古屋大学)
- 断りを表明する場合を中心に -

〔研究発表2：B会場(519 教室)〕

- 10:00-10:25 「静かな」言語復興活動への視点-カトリック教会によるソルブ語の逆行的言語取り替え(Reversing Language Shift)の試み 木村 護郎(一橋大学)
- 10:25-10:50 言語変化に対する意識と行動の比較研究-ら抜き言葉を中心に- 辛 昭静(お茶の水女子大学)
- 10:50-11:00 休憩
- 11:00-11:25 発話解釈における話し手情報の役割 坂本 智香(神戸大学)
- 11:25-11:50 地域語の接触・使用状況と言語共同体への意識 丸山 千歌(横浜国立大学)
- 千葉市土気における地域語とライフ・スタイルの分析から -

〔研究発表3：C会場(517 教室)〕

- 10:00-10:25 10代の子どもの自分の家族をどう表現するか
- 家族の呼称と謙譲表現の習得 - 堀 恵子(麗澤大学)
- 10:25-10:50 親疎関係及び性別による文末助辞使用の相違 濱畑 静香(名古屋外国語大学)
- 10:50-11:00 休憩
- 11:00-11:25 人名形態の変遷とその社会的背景
- 中国山東省の人名調査に基づく考察 王 愛静(大阪大学)
- 11:25-11:50 女子中学生間の会話に見られる言語表現の使い分けについて 梅本 仁美(大阪大学)
- 関西在住の女子中学生のデータから言語表現の「中性化」傾向を考える -

11:50-12:20 総会〔会場：西校舎ホール〕

12:20-13:30 休憩 (12:20-13:15 理事・監事は理事会〔514 教室〕)

午後の部 13:30-15:00 講演 (会場：西校舎ホール)

〔演題〕 「言語習得はどこまで可塑的か？」

講演者 正高 信男(京都大学)

15:00-15:10 休憩

午後の部 15:10-18:00 ワークショップ：3会場で同時進行**ワークショップ1〔会場：西校舎ホール〕**

〔テーマ〕 文化・インターアクション・言語の相互関係に関する実証的・理論的研究に向けて

企画責任者： 片岡 邦好（愛知大学）

話題提供者： 井出 祥子（日本女子大学）

岩崎 勝一（UCLA）

片桐 恭弘（ATR：国際電気通信基礎技術研究所）

堀江 薫（東北大学）

ワークショップ2〔会場：519 教室〕

〔テーマ〕 日本語と他言語の使い分け

企画責任者： ダニエル・ロング（東京都立大学）

話題提供者： 金 美善（国立民族学博物館）

申 昌洙（東京・朝鮮大学校）

陳 天璽（東京大学・日本学術振興会）

ダニエル・ロング（東京都立大学）

宮本 一郎（（財）全日本ろうあ連盟 日本手話研究所）

エレン・ナカミズ（京都外国語大学）

ワークショップ3〔会場：517 教室〕

〔テーマ〕 調査・実験する側とされる側—被調査者・被験者の負担や調査地被害などをめぐって—

企画責任者： 荻野 綱男（東京都立大学）

話題提供者： 齋藤 孝滋（フェリス学院大学）

西谷 健次（作新学院大学）

橋元 良明（東京大学）

村井 潤一郎（文京女子大学）

18:00-20:00 懇親会

第2日 9月23日（日） 9:00 受付開始 10:00 開会**午前の部 使川賞セッション〔会場：西校舎ホール〕**

10:00-10:30 幼児の『聞き返し』-縦断的事例研究-

白井 純子（スタンフォード大学）

10:30-11:00 Analysis of Intercultural Interaction Management within a Party Situation

パーティー場面における異文化間インターアクション管理について

Lisa C. Fairbrother（千葉大学）

11:00-11:30 親族名称に見られる関係表示-日本語と中国語の比較から

薛 鳴（中京学院大学）

12:30-15:30 ポスターセッション〔会場：512 教室〕 次頁をご覧ください**午後の部 13:30-14:45 研究発表：2会場で同時進行****〔研究発表4：A会場（西校舎ホール）〕**

13:30-13:55 中国語呼称の敬語的機能に関する考察

盧 万才（麗澤大学）

- アンケート調査を通して -

13:55-14:20 障害児のいる家族に対処行動を促す鍵概念としての

竹熊 千晶・日高 艶子

方言「のさり」

（九州看護福祉大学）

14:20-14:45 在日コリアン一世の言語運用 - 物語の展開を中心に -

金 智英（大阪大学）

〔研究発表5：B会場（519 教室）〕

13:30-13:55 会話における対称詞の機能

高橋 圭子（東京大学）

13:55-14:20 アナウンスの説得力について - 関連性理論の枠組での説明 -

新井 恭子（学習院大学）

14:20-14:45 話者意図・感情認識における音声の援助的役割

坊農 真弓（神戸大学）

14:45-15:00 休憩

午後の部 15:00-18:00 シンポジウム (会場: 西校舎ホール)

【テーマ】 日本の言語政策 - 20世紀の証言と21世紀への提言

発題者: 片山 純一 (国語政策・文化庁国語課)
 杉戸 清樹 (社会言語学・国立国語研究所)
 田中 慎也 (英語教育学・桜美林大学)
 西原 鈴子 (日本語教育学・東京女子大学)

18:00 閉会

12:30-15:30 ポスターセッション (会場: 512 教室)

- | | |
|--|---|
| P-01 誘導推論と条件文
堀内 タ子 (大阪キリスト教短期大学) | P-14 中国の身振り与会話に関する一考察 - フィールドワークの視点から -
西川 恵美 (明海大学) |
| P-02 社会物理スペースと現実スペースとの概念融合
- 根源的 SHOULD からの一考察 -
長友 俊一郎 (関西外国語大学) | P-15 在韓日本人の言語生活・韓国語に対する意識を中心に -
金 由那 (名古屋大学) |
| P-03 複合名詞の意味解釈モデル
高橋 幸 (東北大学) | P-16 「日本語・非英語」家庭の言語使用: 「日本語・英語」家庭との比較から
山本 雅代 (関西学院大学) |
| P-04 商店における接客用語の社会言語学的研究
木田 敦子 (住友信託銀行) | P-17 「借用語」という視点 - 「外来語」と「借用語」における定義比較からの試案
森口 英則 (名古屋大学) |
| P-05 大家族構成メンバー間におけるコミュニケーションの分析: 「パワー」という視点から
永山 友子 | P-18 外国人訛り - 韓国語母語話者の L2 日本語学習を中心に -
金 菊熙 (東京大学) |
| P-06 過去を語る: 村山談話と広島平和宣言のなかの戦争の記憶
奥田 博子 (東京大学) | P-19 黒人の呼称から見る英語と翻訳 (日本語) の対比 - 『風と共に去りぬ』 -
林 由季子・武田 咲子 (名古屋女子大学) |
| P-07 「所詮は女」 - 会話から見るドメスティック・バイオレンスとジェンダー
中越 綾 (大阪大学) | P-20 JFL 環境における韓国人日本語学習者のあいづち
内藤 真理子 (明海大学) |
| P-08 北方領土回復後の言語問題について
仲矢 信介 (ロシア極東国立総合大学) | P-21 外来語生成における日韓語比較
茂木 亮輔 (東北大学) |
| P-09 言語計画の一分野としてのインターネット
上村 圭介 (国際大学) | P-22 大学生の小論文にみる常体と敬体の混用
奥田 統己 (札幌学院大学) |
| P-10 電子メールによるグループ・ディスカッションの特徴 - 日本・韓国・米国の日本語学習者の意見交換過程の分析 -
杉本 明子 (国立国語研究所)・柏崎 秀子 (東京工業大学)・李 漢燮 (高麗大学校) | P-23 講演の印象評定に影響を与える発話要因
榎 洋一 (東京都立大学)・籠宮 隆之 (国立国語研究所)・前川 喜久雄 (国立国語研究所) |
| P-11 電子文字コミュニケーションに関する探索的研究
中村 優 (神戸松蔭女子学院大学) | P-24 受け手が文体表現から受ける不愉快度・「断り」行為の場合 -
村井 卷子 (京都大学) |
| P-12 文化スキーマ分析による異文化間コミュニケーションにおける日本語文化圏成員の相互作用管理方略の解明
佐々木 由美 (慶應義塾大学) | P-25 三人会話原理・聞き手デザインと参与の編成
高梨 克也 (通信総合研究所) |
| P-13 談話の内容に反映する心的距離・相対的力のあり方 - 韓国語との比較から -
金 秀英 (名古屋外国語大学) | P-26 会話に見られる主導権の移行・聞き手による「申し出」連鎖の分析から
森本 郁代 (大阪大学) |

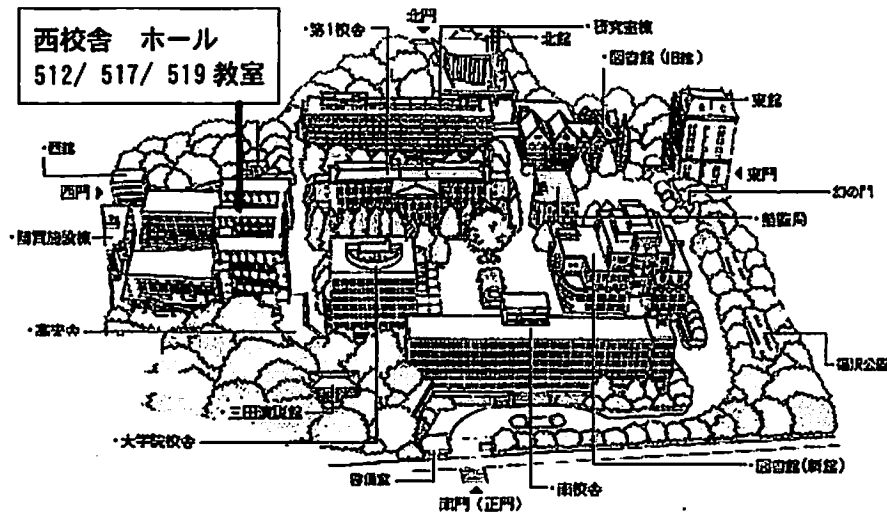
※学会事務局から 会員の皆さんへお願い※

○会費が未納ですと、学会誌やニュースレターの送付を受けることができませんので、早めに納入してください。

一般: 7,000 円 学生: 5,000 円 団体: 10,000 円

国内会員 郵便振替口座 加入者名: 社会言語科学会 番号: 00210-2-87060

○住所や所属の変更など個人情報に変更があった場合には、すみやかに事務局までご連絡をお願いします。



特集号テーマの募集

『社会言語科学』では、特集号を発行しています。これまでに「日本の言語問題」(第2巻第1号)、「日本語と言語接触」(第3巻第1号)の特集が実現し、現在「電子社会の言語科学」(第4巻第1号の予定)と「言語の対人関係機能と敬語」(第5巻第1号の予定)の特集が進行中です。よい特集のテーマがありましたら、学会誌編集委員会委員長までご提案ください。

書評候補の募集

『社会言語科学』では、毎号2, 3本の書評を掲載してきました。よい書評候補がありましたら、学会誌編集委員会委員長までご推薦ください。

特集論文の募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、「特集・言語の対人関係機能と敬語」の論文を募集しています。特集に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。原稿の種類、原稿の書き方、投稿のしかた、投稿先などは、通常の論文の場合と同じです。投稿に際し、「特集」のための論文であることを明記してください。

論文投稿の締切：2001年11月30日(金) 掲載号の発行：2002年7月(第5巻第1号に掲載予定)

お問合せ先：学会誌編集委員会委員長・岡 隆

E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp ("l"は英字のエルです)

Fax: 03-3815-6673

〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部社会心理学研究室

特集・言語の対人関係機能と敬語

敬語問題は、日本の言語研究において古くて新しいテーマである。敬語現象は、閉じられた形式体系として見る場合、日本語や韓国語やジャワ語などの一部の言語にのみ存在する特殊な現象として捉えられる。20世紀の敬語研究の歴史をふり返ると、このような見方が主流をなしていたと言える。しかし、敬語現象を、対人関係を調節するという言語の基本的な機能の現れとして見る場合、われわれは形態上の特徴や形式体系へのこだわりから解放され、一つの開かれた機能システムとして敬語現象を見直し、世界のどの言語にも存在する普遍的な現象として捉えなおすことになる。20世紀後半から、機能主義という旗印を掲げるか否かにかかわらず、このような形式より機能を重視する研究が急激に増えてきた。

そして、敬語問題へのアプローチの仕方についても、近年語彙論、形態論、文法論の枠を越え、意味論、語用論、社会言語学などの視点による考察が増えてきて

いる。今後は、さらに言語学以外のさまざまな視点の導入が必要で、社会学、心理学、病理学、文化人類学、哲学などによるアプローチが期待される。われわれは学際的な交流を通じてさまざまな分野から多くの養分、知見を吸収し、狭義的敬語現象を含めた言語の対人関係機能の研究を一層深化させ、発展させていかなければならない。

本特集は以上のような主旨のもとで、下記のようなテーマに関する研究論文、展望論文、ショートノートの投稿を募集する。

- ・言語の対人関係機能に関する理論的考察
- ・対人関係障害と言語問題の臨床分析
- ・現代社会での敬語・ポライトネスの実態調査
- ・言語教育での敬語・対人関係機能の習得問題
- ・新しい視点による敬語の史的研究
- ・異文化接触と敬語行動の対照研究
- ・世界諸言語に見られる敬語現象の報告
- ・敬語と倫理問題の思想的・哲学的思索

第9回大会の予定は以下のとおりです

期日 2002年3月2日(土), 3日(日)
 場所 千葉大学西千葉キャンパス
 所在 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33
 (http://www.chiba-u.ac.jp/soumuka/kotsu.html 参照)
 交通 JR(総武線) 西千葉駅北口から徒歩約1分
 開催校・連絡先電話 043-251-1111 (代)

研究発表の募集

第9回大会の研究発表を以下の要領で募集します

発表種別には、口頭発表とポスター発表を設けました。ポスター発表は会員同士が直に議論や情報を交わすことのできる発表形態です。奮ってご応募をお願いします。

【発表資格】 申込の時点で社会言語科学会の会員であること(申込と同時に入会も可。連名発表の場合、筆頭発表者・口頭発表者は本学会員である必要があります)。

【発表内容】 本学会の趣旨に沿った分野の内容で未発表のもの。(社会言語学, 社会心理学, 社会学, 心理学, コミュニケーション論, 言語学, 言語人類学, 文化人類学, 語用論, 日本語教育, 英語教育, 情報科学, 認知科学, 人工知能, その他の分野で, ことばを社会や文化・認知との関係でとらえた研究)

【発表形態】 (1)口頭発表(質疑応答を含め25分程度の発表時間を予定), (2)ポスター発表(ポスター数件を集めてポスターセッションを構成します。発表者と聴衆が直接議論することができます。)

【応募要領】 (1)発表題目, (2)氏名, (3)住所, (4)連絡先電話/Fax 番号, (5)E-mail アドレス, (6)所属, (7)職名, (8)希望発表形態(口頭/ポスター), (9)発表要旨 1,200 字程度を記載した E-mail を下記アドレスに送付してください。

なお, E-mail での応募を原則としますが, 郵送でも受け付けます。その場合, 上記(1)~(9)の項目をなるべく A4 用紙 1 枚に収めるようご記載ください。※要旨の言語は日本語を原則としますが, 英語でも受け付けます。

【応募先】 jass-submission@mic.atr.co.jp
 〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町 4-1-27-208
 社会言語科学会研究大会委員会 阿部圭子
 Fax: 0422-55-5759

【申込締切】 2001年11月15日(木)

【予稿集】 採否の結果は12月15日までに応募者に連絡します。

発表者には(口頭発表, ポスター発表とも), 発表に先だって予稿集用の原稿の執筆をお願いします。A4 サイズで6ページ以内, 締切期限は2002年1月15日の予定です。

なお, 応募の採否, 発表順序などについては研究大会委員会にご依頼します。発表形態(口頭あるいはポスター)についても応募時の希望に沿えない場合もありますので予めご了承ください。

※第8回大会では, 50 件の発表応募があり, そのうち 46 件を採択させていただきました。

研究大会ワークショップ 企画募集のお知らせ

研究大会では, これまで研究発表の他に大会企画として招待講演, シンポジウムなどを開催してきました。研究大会における会員間の交流を促進し, 大会を一層実りあるものとするために, 次回の研究大会では, 会員の提案に基づくワークショップの開催を計画しています。特定のテーマを設定して集中的に討論を行い, 研究課題の整理・発掘, 新たな研究方向の提示, 異分野間の認識の擦り合わせを目標とします。

上記趣旨により, ワークショップの企画を広く会員のみなさまから募集いたします。企画提案者は以下の項目を添えて E-mail にて下記までお申し込みください。

【提案項目】

- (1) ワークショップ題目
- (2) 企画責任者の氏名, 所属, 連絡先
- (3) 他のワークショップ参加予定者の氏名, 所属
- (4) ワークショップの企画概要(1,000 字以内)

【送付先】 jass-workshop@mic.atr.co.jp

〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台 2-2-2

国際電気通信基礎技術研究所 片桐恭弘

Fax: 0774-95-1178

【申込締切】 2001年11月15日(木)

○ワークショップは大会期間中に研究発表とは独立に1企画あたり3時間程度での開催を予定しています。ワークショップ並列開催の可能性はありますが, 研究発表とは重ならないよう設定する予定です。

○会場準備の都合上, 申し込み多数の場合には, すべての開催希望に添えない場合もあります。ご了承ください。

今回から毎号1人の会員にお願いして、
各人の「研究最前線」をお伝えします。

研究最前線

第1回は、辻大介氏に、現在の研究関心の根幹
をなすところについてお書きいただきました。

コミュニケーション、誠実、快楽

辻 大介（関西大学社会学部）

コミュニケーションにおいて真実が伝えられること、あるいは、コミュニケーションが誠実に行われること。その重要性はおおよそ誰も疑えまい。すべてではないにせよ、たいていの場合、たいていの人はウソをつかない、でたらめを言わない。そう信じていることができなければ、私たちは社会生活を営んでいけなくなってしまうことだろう。

しかし、私たちのコミュニケーションにおいて重要なのは、ただ誠実さのみであるのだろうか。むしろこうした誠実性や真実性という視角からは見落とされてしまう部分も、かなりあるのではないだろうか。

たとえば、テレビドラマや映画、演劇、小説のことを考えてみよう。これらが描きだしているのは、現実にあった話ではなく、虚構・「ウソ」の話であり、私たちはみなそのことを知っている。にも関わらず、私たちはそれに笑い、泣き、場合によっては考え方や生き方まで変えることがある。このとき重要なのは、そこに描きだされているのが事実か虚構かではあるまい。

冗談やギャグのことを考えてみてもよい。確かにそれらは「ふまじめ」なものかもしれないが、一方で人間関係の潤滑油となり、ストレスを和らげる清涼剤ともなる。冗談やギャグに笑うとき、それがまじめな発言ではないことはどうでもいいことであり、何ら重要ではないことなのだ。

さらには広告。これほど不誠実なコミュニケーションもあるまい。ウソとまではいかななくても、一面的であり、自画自賛を並べたて、自らに都合の悪いことは決して言わない。きわめて眉唾ものであり、誰も広告の言うことを鵜呑みに信じたりはしない。

しかし、それにも関わらず、広告には商品の売り上げを伸ばす力がある。うそつき少年が「狼が来た」と言っても誰も動きはしないのに、広告は動かせるのだ。ということは、つまり広告は、誠実性や真実性とは別の次元で機能しているということになるだろう。

では、それはどういう次元か。詳細は省かざるをえないが、おそらくそれは、快楽（おもしろさや楽しさ、華やかさ、等々）という次元である。広告は快さに満ちた商品世界を演出し、ことば巧みにそこへと誘う。それが成功したとき、消費者は心地よさそうな舞台へ自らも参加（しているかのように想像）するためのチケットとして商品を買うのだ。

ドラマや小説、冗談やギャグにおいて重要なのも、誠実さや真偽ではなく、この快楽性の次元である。私たちはそれらを評価するときに、まじめなドラマとか正しくない冗談とは言まい。愉快的なドラマ、つまらない冗談と言うはずだ。

こうした快楽という次元は、誠実や真偽という次元とならんで、あるいはそれ以上に、私たちのコミュニケーションにとって重要なものかもしれない。私は子どもが生まれてから、特にその感を強めるようになった。

子どもは私に正しく呼びかけるために「パパ」ということばを覚えるのではない。「パパ」と声をかけると、私がふりかえり、笑いかける。子どもにとってそれは一つのゲーム（まさに言語ゲーム！）であり、その楽しさのゆえにことばを使いはじめ、身につけてゆく。そんなふうに思えてしかたないのだ。

コミュニケーションの“快楽”。精神分析学を安易に援用することなく、どうすればそれに迫れるか。どんどんことばが達者になっていく子どもたちとの言語ゲームを楽しみながら、最近つらつらとそんなことを考えている。

博士論文一覧(2000年度)

(2001年8月24日受付分まで)

- 丸山千歌 「言語変化の要因としての権威構造の変化 - 地域語とライフ・スタイルの分析 -」, 2000年3月
所属：国際基督教大学大学院比較文化研究科（現在：横浜国立大学留学生センター）

以下の情報・原稿を募集しています。

- 博士論文一覧 本学会の趣旨に沿った分野の内容で書かれた、2000年度の博士論文一覧を、順次、掲載する予定です。情報（論文タイトル、著者名、所属）をお寄せください。要旨・抄録は掲載いたしませんのでご了承ください。
- 新刊紹介 本学会の趣旨に沿った分野の内容で書かれた、よい新刊がありましたら、1冊につき200字程度でご紹介ください（書評はお受けいたしません）。自薦・他薦は問いません。採否は当委員会にお任せください。

送付先・問合せ先 社会言語科学会事業委員会 jassjigy@cf6.so-net.ne.jp
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所気付
Fax: 03-3906-3530（所内共用につき、「社会言語科学会」宛て明記してください）

私達は若い研究者を応援します。

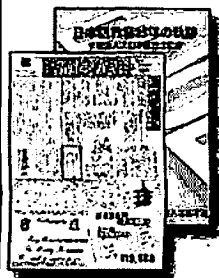
学校法人江副学園は、1975年に設立された新宿日本語学校が、1999年に日本語教育を目的として新たに設立した学校法人です。現在、この学校法人は新宿日本語学校（略称SNG）とカルチャー・アンド・ランゲージ・センター日本語学校（略称CLC日本語学校）の二つの日本語学校を運営しています。私達は、日本語教育に陽があたりなかった時代に細々と学校を運営してきました。私達なりのそうした苦勞の結果迎えた学校法人設立です。公益法人となった今、若い研究者の育成のためにささやかな資金援助をすることも、それが意義がある限りは、私達の目的の一つと考えています。



「日本語教育 25 年の軌跡」（発行・新宿日本語学校）

今日、多数のアジアからの学生が来日しているのを見て、日本語教育はアジア中心にスタートしたと思われるかも知れません。しかし、私達は日本語学校を開いた1975年（昭和50年）の私達の学校は欧米の学生であふれていました。

当時は中国や韓国の学生は、特別な許可を得た人でなければパスポートを手にすることは不可能だったのです。そうした一般日本語教育が芽を出し始めた頃の日本語学校の姿を伝える貴重な一冊です。ここには、1975年から1985年までの10年間の機関誌が縮刷版のようにして集められています。また、文部省（当時）が最初に一般日本語学校に委託した昭和58年度の委託研究の成果「ワープロを利用した日本語教授法」も掲載されています。御興味のある方は当校まで。 定価2000円（税別）



学校法人江副学園

新宿日本語学校

169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-9-7

Tel 03-5273-0044 Fax 03-5273-0018



学校法人江副学園

CLC日本語学校

169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-16-13

Tel 03-5273-0753 Fax 03-5292-3180

ベストセラー「SPSS 10.1J for Windows」(日本語対応版)

優れたデータ管理、分析レポートとモデリング。貴方の研究に大いに活用ください！

最新バージョン SPSS 10.1J は、分析ソフトウェアの新しい標準を打ち立てました。膨大な量のデータに素早くアクセスし、迅速な分析を行います。

大量データを迅速にアクセスし、分析する

SPSS 10.1J は、ファイルサイズの上限が事実上ないため、大量のデータに迅速にアクセス・分析することを容易に行えます。企業データのデータベース、Web からダウンロードしたデータなど、データの種類に関わらず、データへのアクセスとデータ管理が今までになく、容易になりました。

分析のためのデータ準備を迅速に、そして容易に進める

複数のテーブル表を結合して、SPSS の読み込む前の段階で、SQL の知識なしにデータの準備を進めることができます。その後、SPSS 10.1J で新しく設計されたデータ・エディターでデータの内容を調べることも容易にできます。

「Report OLAP」で最良の分析結果を提供する

OLAP 技術は、組織が情報を作成・共有する方法を変えます。SPSS の「Report OLAP」は、OLAP の「A」、すなわち Analytical (分析) の部分を何より重視します。状況に応じたその場での意思決定を下すために、情報を作成、配布、操作するための迅速かつ柔軟な機能を提供します。

総合的な機能でデータを分析する

要約統計や、行列計算を超えた分析が可能になります。SPSS 10.0J は、集約、度数、クロス集計、クラスター分析、記述統計、因子分析、回帰分析などの基本的な分析のために、以下のような広範囲な統計手法を提供します。そして、分析作業の終了後は、その結果をデータベースに反映させることが可能です。

大好評出荷中！！！！

<< SPSS 10.1J ホームページ >> <http://www.spss.co.jp/product/ALL/base/index.htm>



エス・ピー・エス・エス株式会社 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー 10F
Tel: 03-5466-5511 (代) Fax: 03-5466-5621 e-mail: jpsales@spss.com URL <http://www.spss.co.jp>